



(1) 数理・データサイエンス・AIプログラム

情報通信技術の発展により、社会基盤は高度に情報化されつつある。法政大学の「数理・データサイエンス・AIプログラム (MDAP) リテラシーレベル」は、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度 (リテラシーレベル)」に認定。データを正しく扱う力を磨き、持続可能な社会の構築に寄与する人材の育成を目指す。

(2) 他学部科目履修制度

全学生が履修可能な他学部公開科目に加え、成績優秀者にはさらに広い分野を学習する機会を提供。履修対象となる科目は約2,500にも上る。総合大学ならではの充実した学びの環境を活かし、社会課題に向き合う多角的な視点を養う。

(3) サティフィケートプログラム

全学から提供されたSDGsに関する科目で構成される「SDGsサティフィケート」は、持続可能な地球社会の構築に貢献する力を身につける。「ダイバーシティ・サティフィケート」は、多様性が重視される社会構造の本質を理解し、主体的に考え、行動するためのプログラム。「アーバンデザイン・サティフィケート」は、市民が安全・快適・効率よく活動できる「空間形成」がテーマ。理工系と人文・社会系を融合させ、ハードとソフトの両面から新しい都市を築くためのデザインを考える。「未来教室サティフィケート」は、学生の関心・興味をかたちにした、学生発案型教育プログラム。専門領域での学びと社会課題を結びつけて解決の糸口を探る、アナログ思考の能力や、「大学の学びと社会との繋がり」についての主体的な気づきを言語化する能力を身に付けることを狙いとしている。「カーボンニュートラル推進リーダー育成プログラム」は、地球規模の環境・社会問題に取り組む人材の育成やそのためのリテラシー向上を図るプログラム。

(4) 入試情報サイト

受験生向けコンテンツが満載の情報サイト。入試概要や入試データ、一般選抜の志願状況など入試に関するあらゆる情報をはじめ、実際の学びの様子が疑似体験できる教員によるミニ講座、先輩たちのリアルなキャンパスライフ紹介、受験生に参考にしてほしい勉強方法、入試対策のコツなど、役立つ内容が盛りだくさん。

注目される法政大学の先端研究

法政大学では「研究・教育活動に対する受賞・表彰者祝賀会」として、学会などで受賞し、表彰された教員の方々を祝賀する場を設けています。ここではその魅力あふれる研究の一端を紹介します。

南極地域観測隊の活動から地球温暖化に立ち向かうヒントを

社会学部社会政策科学科 澤村 教伸 教授



氷河地質学を専門とし、南極の氷河・氷床研究に長年取り組んできた澤村教授。初めての調査(1992~94年)では珍しい地形を発見。その後、南極の氷河・氷床の下には大きな水たまりがあり、今も水が流れていると判明しました。今後は、南極大陸の氷河・氷床の下の水によって、南極の氷がどの程度融けているのかを調べていくそうです。

4回目(2021~23年)の南極観測では越冬隊長を務め、隊員の安全確保に尽力。「現在、地球はティッピングポイント(転換点)にあるといわれています。南極地域観測隊の活動を多くの方に知っていただき、具体的な行動に移すきっかけとなればうれしいです」と未来への展望を語ります。

【記事詳細：広報誌「HOSEI」2023年8・9月号】 [https://my.ebook5.net/hosei/magazine23\\_8-9/?page=18](https://my.ebook5.net/hosei/magazine23_8-9/?page=18)

日常生活を支える「食」から未来につながる実践知を考える

人間環境学部人間環境学科 湯澤 規子 教授



湯澤教授が研究しているのは、地域と日常生活の経済史、産業活動と人々の暮らしの歴史など。中でも注目するテーマの一つに「食」があります。「食」からは、ジェンダーや都市の問題、経済学、歴史学、文学など、あらゆる学問分野とのつながりが見えてきます。

「白米の『間食』を例に取り上げると、19~20世紀の女性解放運動において、国境を越えて女性たちが連帯してきた歴史が浮かび上がります。『食』を入り口として総合知を得られ、実践知につながることが、日常生活の研究の面白さなんです」と湯澤教授は語ります。同研究には第12回河合肇雄学芸賞が授与されました。

私たちの生活と切っても切れない関係にある「食」。誰もが暮らしやすい未来を描くために、「食」にまつわる研究の数々が多くのヒントを与えてくれることでしょう。

【記事詳細：広報誌「HOSEI」2023年10・11月号】 [https://my.ebook5.net/hosei/magazine23\\_10-11/?page=18](https://my.ebook5.net/hosei/magazine23_10-11/?page=18)

にオンラインを利用していましたが、そのためにデジタル化が世界中で急速に進みました。海外留学プログラムは今後も変わらず充実させながら、オンラインプログラムを増やすことを視野に入れています。今秋から海外の先生に一部の授業をオンラインで受け持ってもらうほか、グローバルな共同ゼミも、これまで以上に頻繁にディスカッションができるようになるはず(廣瀬総長)。

たとえば海外に興味がない地元志向の学生であっても、グローバル化と無縁ではありません。地場産業の小さな酒造会社や、日本酒ブームに押されて海外展開へ乗り出すなどという話も珍しくはないのです。グローバルを学ぶための多彩な入り口が揃っているのは、総合大学ならではのメリットです。

調査活動の成果は学会、シンポジウム、講演会で発表されるほか、報告書などの形でホームページなどにも公開。南極地域観測隊の一員を務めた教授による氷河地質学の研究や、「食」と社会の奥深い関係性を追究した研究など、内容はバリエーションに富んでおり、ひじょうにユニークです(上表参照)。

大学は、思いがけない事例が学問につながっていく場所です。例えば絵を描くのが好きで、色彩感覚に優れた人が法政大学を目指すとしたら、心理学のメカニズムを読み解く心理学科があり、学問的に掘り下げていくと、きわめて尖った面白い研究になりうるのです。受賞・表彰された研究内容などからは、「大学で、こんなことも研究できるのか」という驚きを得られるでしょう。それは皆さんの将来を決める出会いになるかも知れません。

「理系なので国語が苦手」「数学を勉強したくないから文系」などと考えていても、社会に出ればエンジニアはユーザーの気持ちを想像する力が営業職には売上データの数字が意味するクライアントのニーズを分析する力が必要になります。

「苦手な分野の中にも、自分の未来を豊かにしてくれる要素があるもの。だからこそ、本学では文理横断で学ぶ機会を大切にしています」

入試のでも多様性を重んじ、さまざまな学生が集う法政大学。その豊かなリソースを大いに活用し、自由に学び、挑戦していく学生を、法政大学は全力でサポートしています。



ひろつかつや 廣瀬克哉総長

1981年東京大学法学部卒業。87年同大学大学院法学政治学研究所政治学専攻博士後期単位取得満期退学。専門は行政学、地方自治、地方議会、行政経営。ロンドン大学客員研究員、法政大学教授、同大学副学長・常務理事などを経て2021年より現職。

自由を求める機運の高まる1880年、3人の若き法律家たちの力によって誕生した「東京法学社」を前身とする法政大学。150周年という大きな節目を2030年に控え、今日では15学部38学科に加え、大学院・専門職大学院を含む17研究科33専攻3インスティテュートと、多様な専門性を有する国内屈指の総合大学に発展を遂げています。

建学当初から一貫しているのは、「自由と進歩」の学風です。法政大学憲章として掲げられた「自由を生き抜く実践知」という言葉は、常に挑戦をし続ける法政大学の改革の方向性として、また学生の行動指針として、広く浸透しています。市ヶ谷、多摩、小金井キャンパスの恵まれた環境の中で、学生たちは今日も「専門知」を深めつつ、「実践知」を磨いています。

法政大学

〒102-8160 東京都千代田区富士見2-17-1 入学センター TEL 03-3264-9300 <https://nyushi.hosei.ac.jp/>

大学憲章「自由を生き抜く実践知」のもと、可能性に満ちた学習環境で理想とする未来に挑む人材を育成

学部横断的な学びで高度複雑化した社会に対応

法政大学は法学部や経済学部、文学部など、伝統的な学問体系のもと卓越した人材を輩出してきましたが、21世紀に入ってからキャリアアデザイン学部や生命科学部、GIS(グローバル教養学部)、スポーツ健康学部など、世界が抱える課題の解決をテーマとする先端的な学部も増えました。その背景について、廣瀬克哉総長は次のように説明します。

「高度化、複雑化した現代社会で実践的に活躍するためには、専門領域である縦軸を探究すると同時に、専門以外の横軸を拡大していくこと(T型人材)が重要です。社会課題の解決には、学部横断の協働が不可欠なのです。例えば、市ヶ谷キャンパス周辺の都市づくりであれば、法学、経営学、建築学など、異なる複数の学部の専門知を持ち寄ってはじめて、多角的で現実的なアプローチが可能になります。他学部との協働は、自身の専門的な学問を俯瞰的に眺める視座を養うのです」

他学部に通義を公開柔軟な選択肢が魅力

学部を超えてともに解決を探る経験こそが、社会に応用し得る実践知となります。「HOSEI 2030」で制定された「自由を生き抜く実践知」は、この先100年の羅針盤となるべき大学憲章であり、それを具現化するのが「学部横断的な教育」なのです。

横軸拡大の機会には、豊富な教育プログラムにも現れています。全学共通教育プラットフォーム科目では、数理・データサイエンス・AIプログラムをはじめ、現代社会で文理を問わず必須とされるさまざまなスキルの基礎と応用を網羅しています。このほか、他学部公開されている科目は文系・理系・教養を合わせて毎年約700科目。多くの学生が将来のキャリア形成を見据え、新たな分野の知識を身につけたり、専門分野で得た知識をより深めるために、他学部の授業を履修しているのです。幅広い選択肢の中から、自身の興味・関心に応じて柔軟な学びをデザインしていくことができます。

これらの「他学部公開科目」を基盤に、学際的なテーマをより体系的に学ぶ5つのサティフィケートプログラムも開設。そのうち「SDGs」「ダイバーシティ」「アーバンデザイン」の3領域は、いずれも法政大学が注力するテーマです。これらの単位を修得すると、国際規格である



オープンバッジ(デジタル証明書)が授与され、能力や活動を証明するものとして就活の場などで活用できます。「千代田区コンソーシアム」では千代田区内の5大学※と連携し、他大学の単位が取れる単位互換制度を導入しました。企業や団体と共同で企画したフィールドワークも多く、学生だけでなく、社会人も一緒に課題解決に取り組める実践的な機会をこれからも提供していくつもりです(廣瀬総長)

新たなステージへ進化するポストコロナのグローバル教育

法政大学のグローバル教育は、確かな語学力を身につけるためだけでなく、地球規模での問題を解決する力を培うのが目的です。英語による授業でグローバルスキルを磨き、海外留学でグローバルな実践知を獲得し、卒業後は国際機関や海外の大学院など目標の進路へ。この着実なステップアップの中心を担うのが269校の海外交流協定大学・機関による充実した留学制度でした。しかしコロナ禍を経て、この体制にも変化が生じています。

「コロナ中は渡航ができず代替的

※千代田区内の5大学…大妻女子大学・同短大部、共立女子大学・同短大、専修大学、東京家政学院大学、二松学舎大学